

Press Release

For immediate release – 2011年6月2日

久米島の海底鍾乳洞から新種のヌマエビ類を発見

– WWF ジャパン「久米島応援プロジェクト」現地調査–

沖縄島の西約100kmに位置する久米島（沖縄県久米島町）で、新種のヌマエビ類が発見された。久米島は琉球列島の中でも生物多様性が高いと考えられている島。発見された場所は、沿岸の水深35m程にある海底鍾乳洞。河川の上流部から河口汽水域の淡水を生息域とするヌマエビ類が、海域に生息しているのは世界的にも例がない。今回発見されたヌマエビ類は新属新種で、甲長2.5 mmで眼が退化傾向を示すなどの特徴がある。これは、学術的に貴重な発見であり、その詳細については、2011年6月4日に琉球大学で開催される沖縄生物学会にて発表される。なお、今回の調査は、「久米島応援プロジェクト」の現地調査の一環として、2011年2月に実施された海底洞窟生物調査の過程で採集された。

■ 調査背景：

久米島沿岸には、国内最大級の海底鍾乳洞である「ヒデンチガマ」に代表されるように、大小様々な海底洞窟が存在している。このような海底洞窟環境からは、これまでもクメジマドウクツガザミ *Atoportunus dolichopus* Takeda, 2003や、クラヤミヒラオウギガニ *Neoliomera cerasinus* Ng, 2002などの珍しい甲殻類が発見・記載されている。しかし、久米島の海底洞窟の多くは水深35mを超える深所に存在するため、研究者による網羅的な生物相調査は不十分である。そこで、「久米島応援プロジェクト」に参加している琉球大学の藤田喜久博士らが地元の漁師やダイバーの協力を得て、2011年2月3日～7日にかけて、現地調査の一環として、久米島沿岸の海底洞窟の調査を実施した。



久米島の海底鍾乳洞から採集された新種のヌマエビ類。海域に生息するヌマエビは世界的にも例がない (C) 藤田喜久

■ 発見の学術的価値：世界的にも珍しい海産の「ヌマエビ」

今回得られたヌマエビ科エビ類は、久米島の沿岸にある海底鍾乳洞（ヒデンチガマ）の洞内で採取した。本種は、甲長2.5 mmの小型種であり、形態的特徴として、主に以下の点が挙げられる。

- 1) 頭胸甲に眼窩上棘と前側角棘を有すること
- 2) 額角は短く、周縁に歯を欠くこと
- 3) 眼が退化傾向にあること
- 4) すべての胸脚に発達した外肢を備えること

(2ページにつづく)

このプレスリリースと関連資料はWWF ジャパンのウェブサイトでもご覧いただけます (<http://www.wwf.or.jp>)

WWF(世界自然保護基金)は100を超える国々で活動する世界最大の自然保護NGOです。

WWF– World Wide Fund For Nature (also known as World Wildlife Fund)



本種は、眼窩上棘を有する点でヌマエビ亜科に属するが、同亜科に含まれるいずれの既知属（7属が含まれる）にも該当しない特徴があるため、未記載属未記載種（一般的には“新属新種”と表現されることが多い）であることが分かった。今後、記載論文を執筆・投稿する予定である。

ヌマエビ類は、世界から約450種以上が知られ、基本的に河川や湖沼などの淡水環境に生息する（一部は、地下水環境や河川河口の汽水域に生息する種も存在する）。しかし、本種は、水深35mの海底鍾乳洞から採集されたもので、完全な海産種としては、世界で初めての発見であると思われる。

今回の発見は、コエビ類の海域から河川への移行・進化過程を考える上でも興味深く、学術的価値も高いものである。

■ 調査体制：

藤田喜久（NPO法人海の自然史研究所／琉球大学大学教育センター・非常勤講師）
上野大輔（琉球大学理学部／NPO法人海の自然史研究所(当時)）
成瀬貫（琉球大学熱帯生物圏研究センター）

■ 問合せ先：

安村茂樹（WWF ジャパン自然保護室 主任） 携帯：080-3448-4616、TEL：03-3769-1713
メール：yasumura@wwf.or.jp

藤田喜久（NPO法人 海の自然史研究所・代表理事／琉球大学大学教育センター・非常勤講師）
携帯：090-9599-8131 メール：galatheids@yahoo.co.jp

■ 学会発表：

沖縄生物学会第48回大会（<http://w3.u-ryukyu.ac.jp/okibio/active/index.html>）

会場： 琉球大学理系複合棟 102号室 および 1階玄関ホール

日時： 2011年6月4日 9：45-10：00

○藤田喜久(琉球大・大学教育センター/NPO 法人海の自然史研究所)・成瀬 貫(琉球大・熱生研)・
上野大輔(琉球大・理) 久米島の海底鍾乳洞から得られたヌマエビ科エビ類について

■ 「久米島応援プロジェクト」とは？

久米島は、沖縄島や石垣島に比較して小規模ながら生息環境の多様性が高く、ラムサール湿地やWWFジャパンの南西諸島生物多様性優先保全地域に選定されるなど、琉球列島の中でも生物多様性が高いと考えられている。一方で、貴重なクメジマボタルや海域の生物への赤土の影響が懸念され、将来的な生物多様性への影響も心配されている。これらの状況に対し、島内では赤土防止対策や環境教育活動など、積極的な保全活動が行われている。

「久米島応援プロジェクト」は、WWF ジャパンが、海洋生物学の専門家（海の自然史研究所）、赤土流出調査の専門家（国立環境研究所・沖縄県衛生環境研究所）、地域協議会運営の専門家（沖縄県環境科学センター・自然環境研究センター）によるプロジェクトチームを編成し、久米島における地域主体の赤土流出防止活動を様々な形で支援することで、より効果的で持続的な保全活動の実現を目指すものである。プロジェクトチームには、地域振興の専門家（WWF ジャパン サンゴ礁保護研究センター）や社会学の専門家（東京経済大学）、広報宣伝活動の専門家（博報堂アーキテクト）も加え、地域コミュニティの活性化にもつながるような取組みの推進も目指している。「久米島応援プロジェクト」は、三井物産環境基金による助成を受けて実施している。

久米島応援プロジェクト ブログページ<http://kumejima-support.seesaa.net/>

このプレスリリースと関連資料はWWF ジャパンのウェブサイトでもご覧いただけます (<http://www.wwf.or.jp>)

WWF- World Wide Fund For Nature (also known as World Wildlife Fund)